



研究部会報告

● COM・SCM・スケジューリング ●

・第16回
日 時：10月7日(木) 18:00~20:00
出席者：25名
場 所：青山学院大学青山キャンパス総研ビル7階
13会議室
テーマと講師：「売上増大と在庫削減を動機づけるスループット会計」 菅本栄造（専修大学商学部）
制約条件の理論の中でのスループット会計は、キャッシュフロー会計と責任会計が融合したものと解釈できる。本発表では、ローカルな最適化を全体最適に近づけるしくみとしてのスループット会計の役割や、制約条件理論との接点、活動基準原価計算との比較などについての解説が行われた。また、スループット会計に似た京セラの「時間当たり採算」に基づく議論があった。

● グローバル政策 ●

・第6回
日 時：10月16日(土) 14:00~17:00
出席者：10名
場 所：三菱総合研究所4階CR-4会議室
テーマと講師：
(1)「21世紀のグローバル・ポリシー『思いやり』」
上田亀之助（上田イノベーション研究所）
広範囲の人々や物事を考慮に入れた「グローバル・ポリシー」を樹立することが必須となった。このポリシーが、国籍、人種などに関わりなく誰からも容認されるためには、他の人の思いや考え方に思いを馳せる「思いやり」が重要となる。また、このポリシーを樹立させるためには、話し合い相手を立てながらそれとなく纏めていく日本的やり方が有効と思われる。
(2)「米国航空運輸行政の実態」—航空の安全性を中心として—
小林守信（コンサルタント）
米国では、航空機事故調査によって、多くの航空会社が外注整備に依存し、その整備下受会社は老朽部品といった不良品を使用していることが判明した。本発

表では、これを監督するFAA連邦航空局が業界寄りの団体であるため、不十分な検査しか行っておらず、FBI連邦捜査局が悪質ブローカーを摘発し始めているとの報告がなされた。

● 21世紀における交通・流通システム ●

・第17回
日 時：9月17日(金) 18:00~20:00
出席者：6名
場 所：東洋経済新報社ビル203号室
テーマと講師：「AHS導入効果について」
廣田尊宣、八戸英夫（工学院大学）
自動運転道路システム（AHS）の導入効果は、安全性向上と渋滞緩和にあるが、首都高速道路にAHSを導入したときの渋滞緩和効果の解析結果について報告があった。このために実測された首都高速道路の交通密度データについても詳しい報告があった。
・第18回
日 時：10月15日(金) 18:00~20:00
出席者：8名
場 所：東洋経済新報社ビル203号室
テーマと講師：「空港バスの現状と課題」
新関祐仁氏（東京空港交通株式会社）
成田・羽田空港発着路線をもつリムジンバスも規制緩和による他社参入により、今後、更なる運賃・サービス競争の激化が予想されている。これに対し、空港からのドアツードアとなる貸切バス事業の強化、道路交通情報センターや無線電話を利用した渋滞回避などの対策の紹介があり、活発な討論を行った。

● 待ち行列 ●

・第145回
日 時：10月23日(土) 14:00~17:00
場 所：東京工業大学 本館1-94号室
出席者：27名
テーマと講師（*は講演者）：
(1)「多数回最適停止問題の解法の考察」
穴太克則（南山大学経営学部）
Best Choice Problemのサーベイを行った後、多数回最適停止問題の概要について述べた。次に、Chow, Robins and Siegmundの単調性の条件が成立する場合を想定し、多数回停止問題の最適方程式から得られる停止回数に依存したOLA関数の再帰性を利用して、

最適停止規則を効率的に導く解法について解説した。
また、無情報問題と完全情報問題の多数回停止問題などにも言及した。

(2) 「A direct approach to an M/G/1 queue with exceptional service」

見学宏修*, 宮沢政清 (東京理科大学理工学部)
本発表では、任意の数の例外的サービスを持つ M/G/1 待ち行列を考え、定常状態を仮定せず、各稼働期間中で例外的サービスを受ける客と残りの客の待ち時

間に着目し、逐次的にそれらの分布のラプラス変換を決定する方法について述べた。また、その結果を用いて、待ち時間や待ち人数の定常分布の解析的表現を求め、その分布特性について数値例を交えて解説した。

会 合 記 録

10月25日(月) IAOR委員会

2名

査読者へのお礼

今年度の OR 誌の論文・研究レポート、論文・事例研究、論文・総合報告の査読を次の方々にお願ひ致しました。

ご協力いただきましてありがとうございました。
この場を借りて厚くお礼を申し上げます。

(機関誌編集委員会)

今井 浩, 石井博昭, 上田 徹, 小沢利久, 岸本一男, 國澤直樹, 古林 隆, 逆瀬川浩孝, 新村秀一, 高橋馨郎, 高森 寛, 西尾チヅル, 枇々木規雄, 前川俊一, 武藤滋夫, 森 雅夫, 八巻直一

(敬称略)

日本 OR 学会 入会のご案内

会員の種類と会費

当学会の会員は次の4種類となっています。

名誉会員	特に学会で推薦された個人
正会員	個人 年会費 14,400円 (論文誌不要の場合は 12,400円) 入会金 1,500円
学生会員	個人 年会費 5,000円 入会金 600円
賛助会員	法人A種 年会費 95,000円 法人B種 年会費 48,000円 } 入会金不要 (ただし、B種は中小企業に準ず)

会員の特典

- 個人会員には当機関誌 (月刊オペレーションズ・リサーチ) と論文誌 (季刊 Journal of the Operations

Research Society of Japan [和名: 日本オペレーションズ・リサーチ学会論文誌]) を1部, 賛助会員には1口につき2部 (B種1部) 無料配布します。
・論文誌への投稿, 研究部会への参加ができます。
・春, 秋2回の研究発表会, シンポジウム, 月例講演会, ORセミナー, 各支部主催の研究会や講演会等の学会主催の催しへの優先参加ができます。

入会手続き

入会ご希望の方には、会費振込用紙・原簿等の必要書類をお送りいたします。なお、ぜひ入会していただきたい方がいらっしゃいましたら、紹介者ご記入のうえお送りください。

社団法人 日本オペレーションズ・リサーチ学会

〒113-0032 東京都文京区弥生 2-4-16 学会センタービル ☎(03) 3815-3351(代)